

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名		渋谷区障害者福祉センター代々木の杜				公表日	令和8年2月20日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	2			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	5	・グループの出席者数や職員の欠席状況から、職員配置がたりないところへ専門職を入れて支援のヘルプや評価をお願いしている。	・グループの構成メンバーによっては、一対一の対応が必要な時もあり、安全に過ごす事と充実した活動の提供とのバランスが難しい時もある。環境設定などの工夫を行う。 ・募集に対する応募が少なく欠員の補充が難しい。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	2			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9	0			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9	0			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5	4		・業務全体について見直すべき課題(休憩時間、支援計画作成のため時間の確保など)について改善案を提示し、現場職員の意見を取り入れていく。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	0	・3年に一度の第三者評価、毎年の事業所自己評価の実施と結果の公表。		
	8	職員の意見を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	3	・人事評価面談、アンケートの実施、職員会議等での意見を業務改善につなげられるよう努めている。	・個別支援計画作成の負担は大きく、業務時間内で終わらないことが多い。支援計画の作成方法等について検討が必要。 ・児童発達支援と放課後等デイの業務を並行して提供するため業務が煩雑になっている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7	2	・第三者評価は令和6年に実施。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8	1	・法人内の新任研修、3年目の他施設体験研修、など階層別の研修を実施している。 ・月に一回程度、ケース会議を開き子どもへの支援支援の方法や考え方を担当者ですりあわせる。	・発達や障害特性に関連する研修を事業所内で実施する機会が少ない。職員の希望も聞きながら研修内容の充実を図る。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9	0	・令和6年度に公表。今年度は大きな変更はない。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	9	0			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8	1			
	14	児童発達支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	2		・支援計画の目標などが担当職員間でしっかり共有できていないときがある。策定会議のあり方などを見直していく。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8	1			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9	0			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	3		・一人が立てたプログラムについて、担当職員で共通認識を持てるような話し合いの時間がとりにくい。週単位等で、担当者職員の話し合いを設定できるよう工夫する。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8	1	・「積み重ね」の意味で同じような活動プログラムを行うことがある。		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	9	0			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	4		・支援するチームとして、情報共有や役割分担を明確にし、混乱のない活動を提供できるようにする。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	2	7		・振り返りをする時間の確保が難しい。連絡帳の記入や次の療育の準備に追われがちである。振り返りの枠の設定を考えていく。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8	1	・個々の記録についてはプログラムに沿って丁寧に記録を残している。	・記録が支援の検証、改善のためにうまく使えていない。活動の振り返りを行い、記録に反映させ改善策につなげていきたい。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8	1			

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
関係機関や保護者との連携	24 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9	0		
	25 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8	1		
	26 併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8	1	・昨年度以上に、利用児の所属する園に訪問し、児童の様子や関わり方について共有している。	
	27 就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	9	0		
	28 (28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	7	2	・児童発達・放デイ連絡会での勉強会や交流会を通じて、地域の支援についての情報共有、質の向上に努めている。	
	29 質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	8	1		・事業所として、年間を通して計画的に研修の実施と外部研修への参加を考えていく。
	30 (自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	7	2	・施設長、副主任が参加している。	・子ども部会に参画し、2027年度渋谷区障がい福祉推進計画等の改定に向けて、児童発達支援センターとしての意見を伝えていく。
	31 (31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	1	8	・ほとんどの利用児が保育園、幼稚園等との並行通園であり、特に要望は出ていない。	
	33 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9	0	・個別支援計画について一年に2回見直しを行い、面談を通して保護者と子どもの状況等について話している。	
34 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	9	0			
保護者への説明等	35 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8	1		
	36 児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9	0		
	37 「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	9	0		
	38 定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9	0		
	39 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7	2		
	40 こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9	0	・保護者からの相談には、できるかぎりすぐに話を聞き、対応するようにしている。	
	41 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7	2	・年2～3回、「キッズだより」を発行し、普段の活動の様子を発信している	
	42 個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9	0		
	43 障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9	0		
	44 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	5		・地域の方たちとのイベントなどはない。同じ敷地内の保育園、地域交流センターと一緒にいる形も検討してみる。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
非常時等の対応	45 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9	0		・マニュアルは作成済だが、職員全体に周知できていない。
	46 業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8	1	・避難訓練は定期的に実施。	・週に2回ほどの登園である児童が多いため、年間通しての訓練体験の回数は少ない。
	47 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	9	0	・契約時の聞き取り、「健康調べ」などで確認している。	
	48 食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9	0	・給食業者の栄養士と共に面談し、確認している。	
	49 安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8	1		・安全計画は作成済みである。最低年一回は職員全体で点検、確認を行う。
	50 こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8	1		
	51 ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9	0	・ヒヤリハットが頻回に起こるような設定や状況について、その原因を話し合い、対応策を全体で共有している。	
	52 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9	0	・気になる支援があったときにすぐに相談できるように運営会議やチーム会で、グループ担当チーフから聞き取りを行っている	
	53 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	9	0		・身体拘束の同意書をとった児童は、現在はいない。